

研究主題

個に応じた指導力の向上を目指して〈3年次〉 ～「個別の目標シート」の活用を通して～

【研究の目標】

障害の種類や程度の幅が広い本校の児童生徒一人一人に、適切かつ効果的な指導を行う力の向上を目指して、全体研修や授業実践を行う。これらを通して、児童生徒の将来の自立と社会参加に向けて教育の充実を図る。

【研究の目標】

「個別の目標シート」を充実させ、活用することで個に応じた指導力の向上を図る。

研究の計画（4 年計画）



修正した「個別の目標シート」を活用し、指導力の向上を図る。

【R7年度 研究の方向性（1）】

「個別の目標シート」の作成が個に応じた指導力の向上につながると、より多くの先生が実感できるようにしたい。

研究部



R6年度の成果と課題

研究主題

個に応じた指導力の向上を目指して

成果

- ・「個別の目標シート」を作ること
で、TT間で実態や目標を共有できた。
- ・児童生徒の実態を確認し、日々の実践に生かすことができた。
- ・自分だけでは思いつかない手立てや視点をもつことができた。

課題

- ・「個別の目標シート」はまとめるのに時間がかかる。
- ・普段使いには負担が大きい。
- ・作成の目的が分かりにくい。
- ・活用がしづらい。
- ・細案や指導計画と重複する。

【R7年度 研究の方向性（2）】

「個別の目標シート」を修正し、さらに**使いやすいもの**を目指す。（指導力向上を実感してほしい。）



研究部

【R6 全体研修】ワークシート

学習指導計画の「指導の形態」に書かれていることを転記

各教科等	生活単元学習	単元（題材）名	冬となかよし	評価規準	学部・学年・学級	小学部6年
氏名	学習活動・内容	目標（育みたい力）		評価規準	手立て（指導場面や支援方法等）	
Ａさん	年賀状を出そう	①時-小単-イ-(ウ) ㊦ ②時-小単-Ａ-ア-(ア) ③時-小単-ウ		①教師と一緒に筆ペンで文字を書いている。 ②正月のイラストを貼る場所を自分で選んでいる。 ③年賀状が完成されていく様子を楽しみ、進んで材料に手を伸ばしている。	学部・学年・学級	小学部6年
Ｂさん	年賀状を出そう	①時-小単-ウ-(ウ) ㊦ ②時-小単-Ａ-ア-(ア) ③時-小単-ウ		①下書きと清書で鉛筆と筆ペンを使い分けている。 ②スタンプや貼り絵などを自分で選び、デザインを工夫している。 ③受け取り手に喜んでもらえるように丁寧に作業しようとしている。	学部・学年・学級	小学部6年
Ｃさん	調理をしよう	①生-小3-キ-(イ) ②生-小3-キ-(ア) ③生-小3-ウ		①適切な手順で紙を扱っている。 ②手順を覚え、進んで自分の役割に取り組んでいる。 ③役割を果たすことに達成感を得て、他の役割にも取り組みようとしている。	学部・学年・学級	小学部6年

学習活動が違う例
学習活動が違う例
学習活動が違う例

①知識及び技能
②思考力、判断力、表現力等
③学びに向かう力、人間性等

記入例

目標達成できるようにするための場面設定、
関わり方、教材・教具の工夫等をより具体的に



【R7】個別の目標シート

各教科等	小単元（題材）名	学部・学年・学級	個別の目標シート		
氏名 イニシャル	児童生徒の実態	本時の個別の目標 (育みたい力)	扱う教科	手立て (指導場面と支援方法等)	
		①			
		②			
		③			
		①			

項目の整理

- 単元の個別の目標
- 扱う教科
- 手立て
- 評価規準

- 本時の個別の目標
- 実態
- 扱う教科
- 手立て

概要4

研究の内容と方法

1 全体研修：「個別の目標シート」を使ってみよう 7月



小グループごとに対象児童生徒を決め、「個別の目標シート」を作成

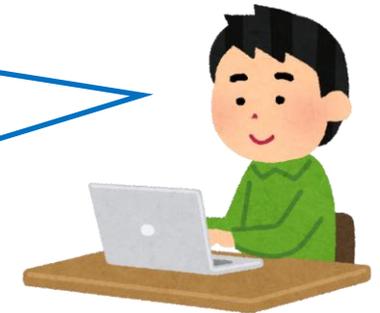
各教科等	小単元(題材)名	学部・学年・学級		
氏名 イニシャル	児童生徒の属性	本時の個別の目標 (履みたい方)	指導教科	手立て (指導準備と支援方法等)
		①		
		②		
		③		
		④		

ねらい

- ① 個別の目標と手立てが明確になり、個に応じた指導力の向上につながる！
- ② T・T間で情報の共有と可視化ができ、指導に役立つ！
- ③ グループでの話し合いで、たくさんのアイデアがもらえる！

～ 事後アンケートでは ～

- 指導目標や手立てを共有でき、指導に役立った。
- ▲ 実際には、作成する余裕はない。個別の指導計画と重複するところがある。など課題も。



研究の内容と方法

2 学部ごとの学び合い ※「各学部の研究授業」

実施日	学習グループ	授業内容	授業者
11月 11日	中学部 A 2年 3組	総合的な学習の時間 「お米の殻を破っちゃおう」	前田 和幸 高嶋 友香 桃井 留菜
11月 13日 名取が丘校	小学部 A 4組 (5・6年)	音楽 「みんなの音を合わせよう」	佐藤 なほ子 児玉 敦子 菅原 礼子
11月 20日	小学部 A 2年 2組	生活単元学習 「季節の飾りを作って冬を楽しもう」	佐藤 明日美 杉原 宏之 佐藤 佳子
12月 12日	高等部 A 2年 B 2・3年	音楽 「みんなで演奏しよう」	佐藤 龍飛 高山 志津子 神田 知巳 鈴木 祥子 建村 智子 浅野 貴俊 坂下 彩希 阿部 恵 三浦 正明 半澤 由美 赤木 聡 遠藤 修子

それぞれの学部ですばらしい授業実践と、充実した話し合いが行われました。

概要6

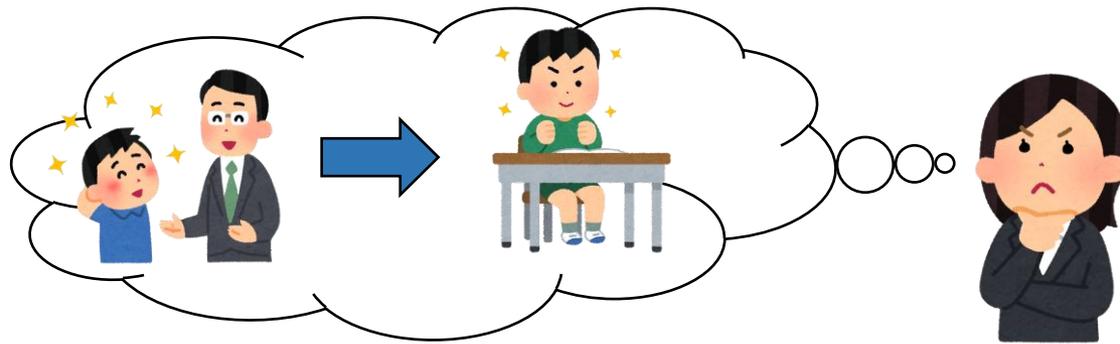
研究の内容と方法

3 研究に関する研修 7月

1) 専門性向上研修会

「発達障害のある児童生徒に対する指導と療育について」

講師：宮城学院女子大学 教育学部教育学科 教授 白石 雅一 氏



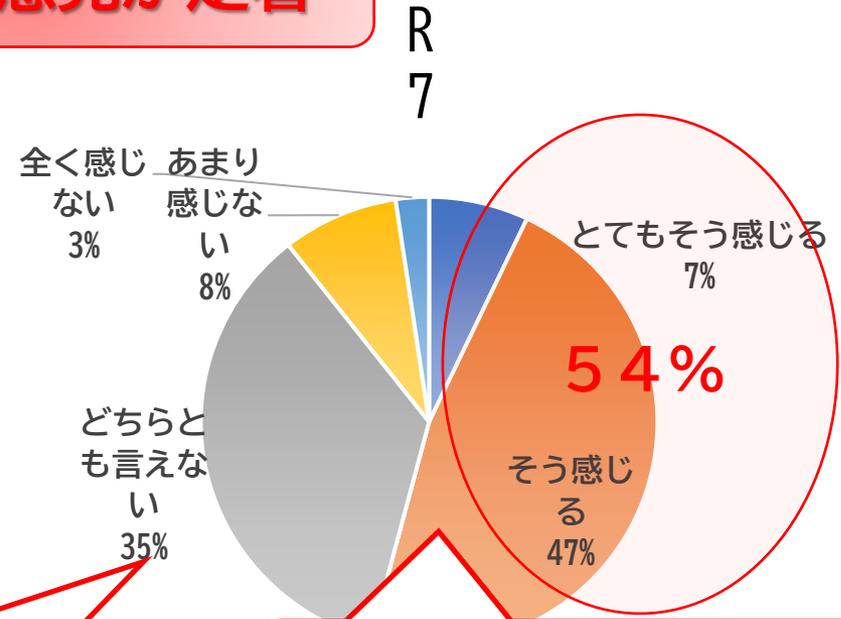
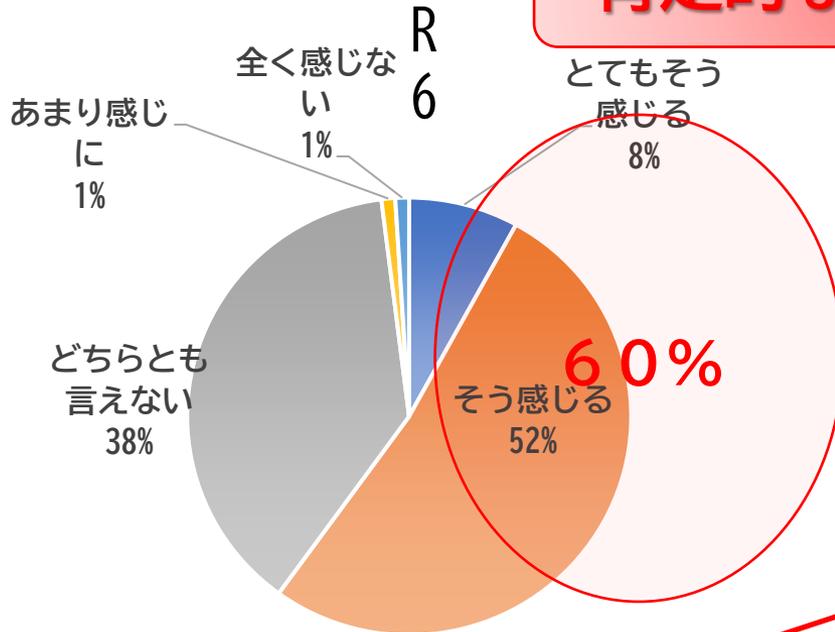
2) 選択研修「夏の研修会」 8月

講師：本校教職員 9名

手話講習会 基礎編	I C T講習会 プログラミング	I C T講習会 生成AIの使い方	保護者支援と関 係機関との連携	障害のある生徒 の進路について
南條 道也 半澤 佳奈	村上 佐知	菅原 淳一 森 大輝	国井 美和 佐藤 奈央子	菊川 智 坂本 由佳

Q. 「個別の目標シート」は、個に応じた指導力の向上につながると感じますか？

肯定的な意見が定着



●児童生徒の実態を改めて確認し、日々の実践に生かすことができた。

●昨年から続けていきたので、慣れてきた。スムーズにできた。

- 「個別の目標シート」の作成は、指導力の向上につながる。
- 使い慣れてきた。スムーズに作成することができた。

- ▲ 負担が大きいのので、現実的ではない。
- ▲ 個別の指導計画と重複している。



来年度の研究の方向性

障害の種類や程度の幅広い本校の児童生徒一人一人に対して適切かつ効果的な指導を行う力の向上を目指して全体研修や授業実践を行う。これらを通して、児童生徒の将来の自立と社会参加へ向けた教育の充実を図る。



研究主題 〈4年次〉

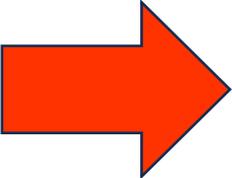
個に応じた指導力の向上を目指して 〈4年次〉
～主体的に取り組む児童生徒の姿を目指して～

「個別の目標シート」の在り方

「個別の目標シート」は、普段使うことを前提にしない。

「個別の目標シート」はチームで授業をつくるための
ツールである。

「個別の目標シート」を作成する際に、チームで話し合
うことで、指導力の向上を目指す。



我々の**トレーニング**として作成する。

◎ 何を**トレーニング**するか。（何を身につけるか）

様々な経験をもつ教員のグループ討議によって

- 児童・生徒の実態把握の仕方
- 個に応じた目標の立て方
- 個に応じた手立ての立て方

◎ どのようにして**向上**を目指すか。

○ 「個別の目標シート」を作成（トレーニング）する時間を**複数回**確保する。

- ・ 全体研修会（5月）
- ・ 学部研修会（年間2回程度）

いよいよ、研究のまとめ4年次！

使い慣れた「個別の目標シート」繰り返し作成し、

各教科等	小単元(題材)名	学部・学年・学級		
氏名 イニシャル	児童生徒の実態	本時の個別の目標 (育みたい力)	扱う教科	手立て (指導場面と支援方法等)
		①		
		②		
		③		
		①		

みんなで、さらなる指導力の向上を目指しましょう！